

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2670400155		
法人名	医療法人健康会		
事業所名	グループホームぬくもりの里		
所在地	京都市下京区七条御所の内本町15番地		
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

長きにわたり地域医療に携わってきた医療法人が運営しており、介護老人保健施設ぬくもり里を中心に、介護関連の事業を展開している。その一つであるグループホームであり、地域との関係も築いてきた。安心して、一人一人に寄り添えるような暮らしが出来るように取り組んでいる。医師、訪問看護師とも密な連携をとり、暮らしを支えている。歯科医、歯科衛生士との連携を通じて口腔ケアにも積極的に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670400155-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670400155-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1 「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成28年3月31日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

京都で第1号のGHとし、18年間の積み重ねで地域や女性会の方との関係が定着し地域行事への利用者の参加が頻繁に行われています。日々の散歩は偏らない様に記録に残し3~4人が出掛け、遠出の外出は月に1回は出かけるようにしています。食事作りにも重きを置き利用者・職員が一緒に作り、旬の食品を先取りして料理する等、季節の香りがする食卓です。利用者のほとんどが自室を無造作にあげ放しご本人は居間で過ごす等事業所全体がご自分の居場所になっています。口腔ケアに力を入れ歯科衛生士の指導の基食前の塩水での嗽や1日5回の歯磨き(歯間ブラシの使用も有り)を行い歯の衛生と肺炎予防に努めています。これ等の取り組みを通して職員が利用者への声かけや関わりの時間の多さや丁寧さで重度化を防ぎ元気に過ごさせています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務会議を通じ、めくもりの里の思いや考え方を伝えその上で実践できるようにしているが、日々状況が変化し、目の前の状況に追われている感が否めない。今一度、理念に立ちかえり、日々の取り組みを見直す時だと感じている。	理念を「個人の自由と尊厳を大切に、その人らしくいきいきと生活が出来るように努めます」と謳い、4月に一年間の振り返りをして毎年の目標を立てている。職員は一步引いて支援に徹し、指示的な言葉は使わずその人らしい生活が出来るように配慮している。近くの喫茶店でモーニングをしてきたという利用者の晴れやかな笑顔も見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会所属して地域のお祭りや地蔵盆、運動会にも参加している。また、食事会や外出のお手伝い等のボランティアを女性会と通じて参加して頂き、地域ボランティアと位置づけている。日常的な交流にはまだまだ至っていない面あり、より一層の取り組みが望まれていると思う。	地域の行事は女性会や運営推進会議で知り、西大路祭りに(1日かけて順番に)全員が参加している。夏祭り・ゆかた祭りの時は女性会や着付けボランティアによる着付けをして貰っている。雑祭り等行事の時の食事会に家族や女性会・地域ボランティアが2~3人来られる等、女性会の貢献が大きく地域と繋がっている。法人の市民向け講座で管理者が講師をしたり、フリーマーケットに職員が参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が取り組んでいる、地域に向けた講座にグループホームの取り組みを紹介したが、もっと地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいかなければならない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	女性会や民生委員の参加があり、事業所の取り組みや、地域の取り組みを知ったりと意見交換をしている。	区の担当課職員・女性会・民生委員・地域包括職員等がメンバーで隔月に開催している。事故やヒヤリハット・苦情等の報告や利用者の様子・行事の案内なども伝えている。「今、全国的に課題になっている虐待問題等について」話し合い、報告を受けて業務会議でも話し合っている。	運営推進会議に家族・利用者の参加が得られる様に、家族にも根気よく参加を呼びかけることが望まれる。会議の継続性と課題を見つけ次につないでいけるような議論の深まりと記録が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に区の担当者が参加しており、事業所の取り組みや問題点なども知ってもらっている。	区の担当者にはホームの事をよく知って貰い、良好な関係が築けている。運営推進会議の議事録を持参している。区のサービス事業所担当者連絡会議があるが、参加が出来ていない。	サービス事業者連絡会の会議に出席し他の事業所との交流や市からの情報が得られるようにされては如何でしょう。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一つ一つのケアが、身体拘束にならないかケアの工夫が出来ないか話あいながら、取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのマニュアルで具体例を挙げて職員で話し合っている。センサーマットを使用している方が2名あり、家族とも話し取る方向で話し合いを重ね、記録にも残している。帰宅願望の強い方には、本人の気持ちに添って対応する事を職員で話し合っている。	

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務会議やケースカンファレンスなどを通じて、具体的な事象からそれぞれが意見や考えを言い合える関係があり、虐待に通じる事案にならないように注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などにも参加して、伝達講習を行うなど必要に応じた対応を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に懸念されることや、疑問に思われることがないか聞きなが話しあいを持っている。また、その都度変化してくる色々な状況に応じて、家族に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が日常的に要望や意見を言えるような信頼関係を築けるように取り組んでいるが、行事に参加してもらったり、運営推進会議などに参加してもらえてなかったり、個々の関係にとどまっていたり、他の家族の意見を聞く機会がないので、アンケートなど意見聞く機会を設けるなどの工夫するなどが課題である。	利用者や家族とは日頃の交流の中で個人的に意見を聞くことは出来ているが、運営に関する意見は聞けていない。アンケートなど事業所の透明性を高める為の方法を職員は模索しつつあるが未だ実行には至っていない。	日頃疎遠な家族の意見の吸いあげの方法として、例えば予め設問を準備した電話アンケートや行事の後でアンケート回収という方法も考えられるので、一考される事を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議には、老人保健施設長(今年度9月より欠席)事務長も参加しており、意見やホームの状況がすぐわかるようになっている。また、具体的な問題に取り組んでいる。	業務会議・日常の中で・管理者による職員面談で意見を聞く機会がある。「学ぶ機会や休憩の取り方について率直な意見が出て」同法人の老人保健施設の研修会等で学ぶ機会を作ったり、休憩の取り方を話し合うなどで改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に職場環境や条件についても臨機応変な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加してもらいたが難しい状態であり、ケアスキルの向上を図ることの難しさに直面している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組めていない。同じ区のグループホームとの交流が出来るよう再度構築たい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の特有のスタンスがあり、その人なりの生活が出来るように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは、家族が困っていることを聞くことや、ホームで取り組めることを話しながら、関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通じ、他のサービスが良いかなど担当ケアマネとも十分検討しあい、場合によっては他のサービスの選択をすすめることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活者としての関係であるように心がけ、教えて頂くんだという思いで暮らしている。それぞれが輝けるよう願っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事を案内したり、気軽に訪ねてもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、知人が来られた時は、また訪ねてこようと思ってもらえるようにもなしている。また、一緒に支えてもらうといった気持ちもある。	入居時のアセスメントで利用者・家族から、馴染みの関係について聞いたり、日々の会話の中で聞いている。社交ダンス仲間や知人・友人の来訪に茶菓でもてなしている。昔の勤め先や住んでいた家・住居・百貨店・お墓など馴染みの所に月に1回は同行し希望を実現している。散歩途中で昔のご近所の方と出会い、立ち話をする時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に行う取り組みや、仲間意識が出来るような雰囲気大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、必要に応じて関係各所にとり協議している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聞く機会を集いや日常的な会話の中に見出すよう務めている。	利用者とは深く係わりひとりひとりの意向の把握に努めている。日誌に書きとめ業務会議で共有している。利用者から声が掛ると、職員は作業の手を止めて利用者に向き合い同じ目線で対応している。利用者が新聞や雑誌を読んだり、計算ドリルをされている姿を見かけた。各々の意向に添って希望の物を準備している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来るだけケアマネにより多くの情報をもらえるようにするなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何に興味があるかや、何をして過ごして暮らしたいかなどその人らしく暮らす方法を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が、ケース会議に参加することはないが、意向を事前に聞き、月一回のケース会議に行っている。また、歯科医・歯科衛生士とも連携し、場合によっては、会議に参加してもらう。これまでは、ケース会議に訪問してきている医師も参加してくれていたが、現在は困難なため、会議で出した疑問などは、往診時や、診療所へ出向くなどして情報の介護計画に生かせるよう配慮している。	申込時に申し込みシートで聞きとり、入居時に入居シートを使いアセスメントをしている。多くの関係者に働きかけた実績をケース記録に残している。ケース会議は医師・歯科医・本人・家族の意見などを事前に聴取し、業務日誌に書きとめた情報も加えて全員分毎月行っている。更新月や状態変化の時は介護計画の見直しをしている。	多くの関係者に働きかけた実績をケース記録に残しているが、書類整理に工夫の余地が見られる。特に個別ケースは見易く使い易く改善され、面会時の家族を巻き込んだケアカンファレンス開催等の方法を再考される事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日、一日の暮らしがどのようなであったかを記録すると共に、気づいたことや工夫が書けるようにしている。		

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるようにしているが、管理者が主に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人々と共に、閉じこもることなく地域活動にも参加できるようにしている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医にかかる場合は、家族の付き添いをお願いしている。往診医は、同法人の診療所から、月4回来ているが、相談等にも応じてくれる。	入居時に利用者・家族に主治医の希望を聴き、継続受診は家族が同伴し情報を渡している。往診時に家族が来られる方もある。母体の医療機関との連携は密であり、24時間医療上のサポートを受けている。同法人の看護師も週1回健康チェックや健康相談を行い健康管理をしている。訪問歯科・衛生士の指導は全員が受けている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護師が週一回訪問して、健康チェック・健康相談にのってくれている。些細なことも相談でき、医師との連携にも支障がない。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携し、病棟や相談員とも連絡をしかけている。状況把握につとめ、早期退院をはかっている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、終末期の判断が出たときは、ホームで出来ることについて、家族と相談しているが、病院との連携や、チームで取り組むには困難が伴い、現在まで看取りを経験したことはない。	看取りはしない方向で、入所の際にその旨を家族に伝え同意を貰っている。重度化した時は「重度化した場合の対応に係る指針」に基づいてホームで出来る事を話し、家族と相談している。母体の病院とも課題意識を持って重度化に関する意見交換をしているが現時点では結論に至っていない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人は救急救命研修を毎月開催し、全職員の受講を義務付けている。ホームについても受講予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を行っている。また、地震・水害等の災害時の訓練も年一回行うようにしている。備蓄も点検し、少しずつでも整備できるようにしている。	消防署立ち会いの基、年に3回避難訓練を行っている。内2回は夜間想定で自然災害の訓練も行っている。「火災・地震マニュアル」があり、備蓄も水・缶詰・紙パンツ・カセットボンベなどを用意し6月に点検補充済みである。女性会の協力もあり、今後は町内の防災委員の協力を得て行く方向である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアにおいて、一人一人の配慮した声かけを心がけている。また、職員同士もお互い声かけをしあい、指摘しあっている。	本人のペースを尊重し個々に配慮をしてさり気ない声かけをしている。入浴拒否の方にも落ち着いて話を聞く機会を作り、気持ちをほぐし納得して入浴されるよう働きかけている。衣服も自分で選んで貰っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けにならないよう、自主的に参加できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを大切にしている。日々の会話のなかで、こんなことしたい、あんなことしたいを出来すだけ実現できるようにと考えている。入浴に関しては、ホームの都合による部分があるので不十分といえる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んでいる人や、選べることが可能な場合は自由にしてもらっている。その人らしい装いが出来るように支援している。例えば、こんな髪型にしてほしいと伝えるために写真を持っていったりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が、メニューの作成に関わり、日々の会話の中に食べたいものなどのヒントを得て、出来る限りおいしく食べてもらえて、栄養バランスもとれたメニュー作りを目指している。みんなが一体となって食事作りをしている。	利用者の希望を入れながら献立は1週間分を当番が立てている。えんどう豆・人参等の皮むき・椎茸等切り易い物を切る・巻きずしを巻いたり、お盆拭き・台拭き・下膳などをして貰っている。おやつは誕生日ケーキを焼いたり、芋のドーナツ作りやパンを焼くのを一緒にしている。旬の食材を早くに取り入れ季節感を感じられるようにする等食事に力を入れている。外食も利用者の希望を聞きながら出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	マニュアルも作成し、食事量のチェック・水分量の把握に努めている。		

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士の助言も受けながら、認知症のお年寄りにとっての口腔ケアの大切さを理解し、実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人、一人の状況に合わせた対応している。なるべくオムツを使わず、トイレへの誘導をしている。	記録により排泄リズムを掴み、トイレでの排泄を基本としている。入院などで一時的に排泄レベルが低下した方にも早期に入院前に戻る様に支援している。排泄後はシャワーポットなどで清潔にし、全介助の方でも昼は布パンツにパット、夜間も極力トイレ誘導をして汚染時の不快感の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活に乳製品を取り入れたメニューを多く入れたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば、希望の曜日で入れることは可能であるが、個別に沿った支援が出来るは言えない。	利用者の状況により、午前・午後週2～3回入浴している。皮膚状態によって回数を増やす時もある。一人ずつゆっくり入浴をして貰い、季節により柚子湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人にあった休息のとり方を考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を作成し、提示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが、役割を持った生活を好きなことが、出来ているという満足できるような暮らしを目指している。		



京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は、気軽に行けるようにしているが、それ以上のことは難しい状況である。買い物や外食なども出来る限り計画し実行している。	日々の散歩は近所に3~4人行っている。個別ケアとして百貨店・花見・趣味の材料の買い物・喫茶店など個別ケアで1ヶ月に1回は出かけられるようにしている。地域ボランティアや家族の協力を得て一緒に出掛けている人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい入居者は、持っており買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を取り次いだり、はがきを買いたりするなど希望に即している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くはないホームであり、共用スペースは少ないが、出来るだけ居心地よく過ごせるようにしている。混乱を生じているものは出来る限り改善している。音にも配慮し、心地よい空間づくりに取り組んでいる。	共用の居間兼食堂は柔らかい間接照明で空気を和ませ4人・3人・2人・1人がけのテーブルを置き各々の生活スタイルに合わせて過ごせる様にしている。テレビも食事中は消してメリハリをつけている。換気・室温・湿度は窓の開閉や機器・ぬれタオルで対応している。窓からは近くの保育園児の散歩風景なども見える。廊下の広めのスペース2か所に机とテーブルが置かれ、ホッと出来る空間で新聞を広げたり、計算ドリルをしていたり、職員とゆっくり話をしている利用者の姿が見られた。壁には利用者の作品が控え目に貼ってある。食事の匂いで生活感が感じられ、鉢植えや花壇の花・手づくりの作品で季節感が感じられる。全員が大家族の様に自然に打ち解けて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に、ひとりになれる場所がないが、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが用意している家具を利用している人が多い。なじみのあるものを持ってきてもらえるようにお願いしている。	居室はベッド・机・洋ダンス・テレビ・空調を事業所が設え、馴染みの小物・写真・作品等で部屋を飾っている。庭に面して障子戸が入っている。殆どの居室は利用者によってあけ放たれ、居室に籠る利用者がなく寝るだけに使われている。表札入れに利用者の作品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしていただけるように、居室内のダンスなどの配置も考えている。出来るだけ自立した生活が出来るようにしている。転倒事故など安全に関わるマニュアルを作成している。		